福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

「初等教育」の重要性についてもう一度考える

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-09-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 博文 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/00028775

「初等教育」の重要性についてもう一度考える

福井大学教育学部長　山本博文

教員養成を目指す福井大学教育学部では、初等教育に力を入れてきており、その重要性を鑑み、その成果を公表する場として 2015 年度、初等教育研究を創刊しました。

初等教育を受け持つ先生のイメージとしては、えてして「教科に関する専門的知識はあまり必要ないよね」、「入試に関係ないから気楽にできるよね」と言ったことを時折、耳にします。特に私の専門としている理科という教科は特にそういった傾向が強いように思われます。でも、実際にそうでしょうか。

学生に理科という教科についての話を聞いてみると、“理科は暗記科目”と思っているということをよく聞きます。私が思っている理科という科目は「自然界の理論を理解する科目」であり、暗記する事項はあまりないと感じています。どうしてこのような違いが生じるのでしょうか。さらに生徒・学生と理科の話を続けると、理科の内容にあまり“実感を伴っていない”、“実生活とつながっていない”と感じます。すなわち授業で出てきた内容が、これまでの、特に初等教育段階での経験・体験が乏しいため、何となく絵空事、実感を伴わず机上の空論となっており、授業で話を聞いても「あ！、あれはそういうことだったのか」という感覚がほとんどないように思えるのです。であれば、後はテストに向けて暗記となってしまっているのではないでしょうか。ある意味、初等段階での経験・体験、広い意味での教育が、非常に重要であると感じています。

では初等段階での教育はどうしたらいいのでしょうか。先日、小学生を対象に地震防災の話をする機会がありました。私の専門とする分野に関する話なのですが、大学生や一般の人に話すより、はるかに難しく感じました。伝えるべき内容を精査し、かみ砕き、わかってもらえる内容にするのは、自分が専門とする内容でなければとてもできそうにありませんでした。「専門知識はあまり必要でないよね」ではなく、「かなり高度な、幅広い専門知識がないと教えられないよね」という感じでした。

本紀要は、初等教育現場で教えるということについての、福井大学教育学部における様々な取り組みを公表する場となっています。ご覧になった学内外の皆様方におかれましては、忌憚のない御意見を御寄せいただくとともに、今後とも、教育学部の実践的な教育研究活動に御支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。